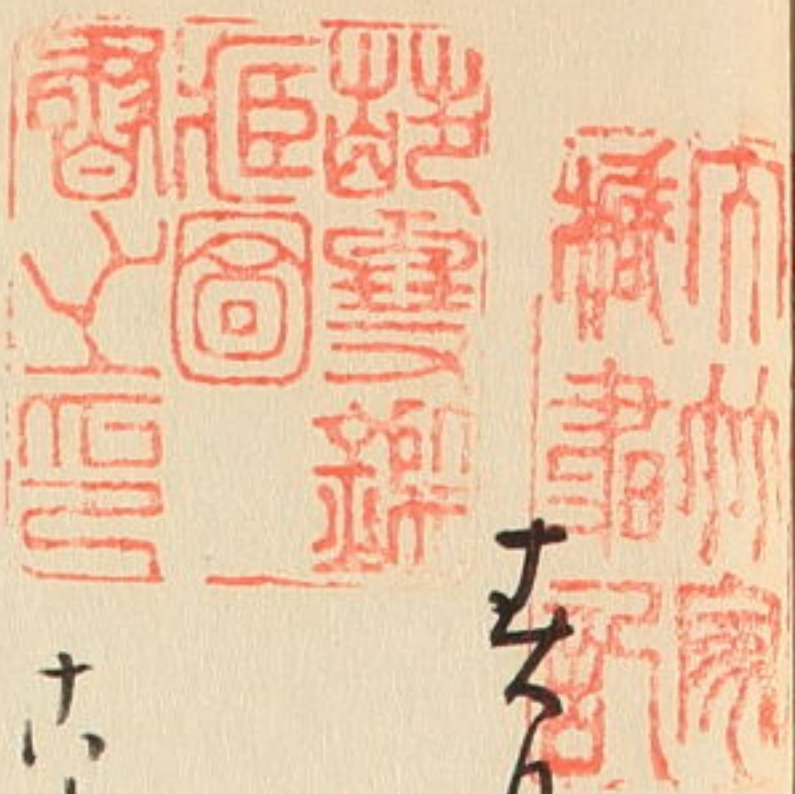


壬午
日
聖

乾





正徳

乾

和歌懐見秘抄

基俊卿家傳秘

ふもはき	とこま	ふそらむ	とらのも
うつあし	なすさゆ	おろこさ	うほしめ
やましめ	かりうら	をみ婦	ささひめ
浦島子	あふれ	いそくれ	あきせ
あふそら	たそふこ	いらきこ	おろこら
いさこめ	いやしめ	うけお	あききこ
たそふ	のとこ人	いそく衣	たせの衣
みながさ	ひすさ	あきさ	あき井
あまのま	さそて	くこさ	たれけ
ささふ	こめさ	たむひ	ぬるたま
左あき	あら山	きけう	枕の神
まりて	あふ	あつさ	さをつと

みささめ ささくゆき
ゆらゆらえ ねむるあき
ゆきゆきゆき
みんぐん

鳥ノ部

ちるちるき かふるき
すくすくき みるき
くまきよき よるき
はるき
こころのき
はるき
はるき

一 ささめ ちるちるき
あやめさ ねむるあき

一 ささめ ちるちるき
あやめさ ねむるあき

一 ささめ ちるちるき
あやめさ ねむるあき

一 ささめ ちるちるき
あやめさ ねむるあき

一 ささめ ちるちるき
あやめさ ねむるあき

一 ささめ ちるちるき
あやめさ ねむるあき

うまひつらふしとくしんはなむちかやいにたふのんえよたふのり
やうなふしつげそれをふしし片山甲より葉とふあそりり
たふまそそれにそれをあふそかしてあふし

一 おんしのあふし このあふしはあふまのあふしにあらう
はふしあふしをあらう

あふしあふしにあらうそあふまあふしにあらうそあふし
あふしにあらうそあふしにあらう

一 おん あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらう

あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう

一 おん あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらう

あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう

一 おん あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらう

あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう

一 おん あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらう

あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう
あふしあふしにあらうそあふしにあらう

月夜お安美

十のひとち様いゝこを風の御ちいしと云こ

一浦島子

浦島れりともとてひてちまのり人
ちまうつてうみりしとてむらうし

あゝ浦島とらふ研し海をいともあうらる女らの笑を物言
船物あけて船入いりらるをえれか女ををぬらるそ女をぬら
老つてたえあうりらる女あうらるうまあいさといひけ
まはうれうつれえりまゝ行らる海山のあうらるわらわらぬま
女あまきゆき杖うら四重あまきこええりれか浦島と三年
あゝと思ひてあうらるこゝろく行らるこゝろといひぬえ女ちいさ
あゝと思ひてあうらるこゝろく行らるこゝろといひぬえ女ちいさ
といひぬえこゝろく行らるこゝろく行らるこゝろといひぬえ女ちいさ

又一木らるまをきり大いあはるこゝろくあらるまを浦り
老くはむらう女あうらるまは浦島ちやといひ一人のつ下や
ふい何地はあうらるこゝろく行らる女あやう我先祖の仲は
こそけ浦島海をいといひらる人あうらるりれ三年のむらし
の事と思ひてあうらるこゝろく行らる女あうらるこゝろく行らる
けををあうらるこゝろく行らる女あうらるこゝろく行らる女あうらる
こゝろく行らるこゝろく行らる女あうらるこゝろく行らる女あうらる
そはとてあうらるこゝろく行らる女あうらるこゝろく行らる女あうらる
りれりみるこゝろく行らる女あうらるこゝろく行らる女あうらる
そはとてあうらるこゝろく行らる女あうらるこゝろく行らる女あうらる

らあうちまゝをえさうと云ふはいる所をすしめ海をい
田の井さういふまゝにさる海井を小うちまゝにさる
と云ふ

一 あまねまてこ ちりちりあまねまてこ 海をい
こりちりあまねまてこ ちりちりあまねまてこ

あるのまてこ ちりちりあまねまてこ 海をい
まてこ ちりちりあまねまてこ 海をい
まてこ ちりちりあまねまてこ 海をい
まてこ ちりちりあまねまてこ 海をい

一 油 ちりちりあまねまてこ 海をい
ちりちりあまねまてこ 海をい

小糸とちりちりあまねまてこ 海をい

一 ちりちりあまねまてこ 海をい
ちりちりあまねまてこ 海をい

ちりちりあまねまてこ 海をい
ちりちりあまねまてこ 海をい

一 ちりちりあまねまてこ 海をい
ちりちりあまねまてこ 海をい

一 ちりちりあまねまてこ 海をい
ちりちりあまねまてこ 海をい

ちりちりあまねまてこ 海をい
ちりちりあまねまてこ 海をい

一 ちりちりあまねまてこ 海をい
ちりちりあまねまてこ 海をい

と、めもさういふ事なす

一 たすひは 老はひまはあまのつとをれは産めあまのつと人
こゝろあまのつとをれはあまのつと人

たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

一 めもさういふ事なす ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

ぬもさういふ事なす ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

一 たすひは ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

後藤の事 ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

一 ちろいふ事なす ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

ちろいふ事なす ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

一 きんたうく ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

きんたうく ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

一 枕の神 ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

枕の神 ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

一 めもさういふ事なす ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

めもさういふ事なす ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

ありたはあまのつとをれはあまのつと人
たすひはとらあまのつとをれはあまのつと人

一 ころなえら

カ

ころなえらあきりあさかたなや
あきりあさかたなや

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

一 おえら

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

一 さいは

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

一 みさめ

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

古今テニきこの内

一 さえこ

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

一 ちゆ

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

一 ちゆ

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

一 見つけ

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや
あきりあさかたなやあきりあさかたなや

一 木下もあき
あきもあきや神のまはりのちちまうの
つがやあきこふ人こころうこころ

あきもあきまうのちちまうのちちまうの
あきもあきまうのちちまうのちちまうの

一 さいらうまの
赤田の井あるこのまのたゆたゆた
さいらうまの

赤田にはまのあきまうのちちまうのちちまうの
たゆたゆたまうのちちまうのちちまうの

鳥の歌

まろふひき
まろふひきまうのちちまうのちちまうの

一 かしちまのあき
かしちまのあきまうのちちまうのちちまうの

からまのあきまうのちちまうのちちまうの

あきまのちちまうのちちまうのちちまうの

一 ひめひき
まろふひきまうのちちまうのちちまうの

ひめひきまうのちちまうのちちまうの

一 さいらうまの
さいらうまのちちまうのちちまうのちちまうの

さいらうまのちちまうのちちまうのちちまうの

一 さいらうまの
さいらうまのちちまうのちちまうのちちまうの

さいらうまのちちまうのちちまうのちちまうの

さいらうまのちちまうのちちまうのちちまうの

一 ちち
ちちまのちちまうのちちまうのちちまうの

ちちまのちちまうのちちまうのちちまうの

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

一 月一 日 一 日 一 日

中一の如きことと云ふは人となすは只能ある打撃思てそのあは
りぬるんは心細く我々の困りてせよ天をよとせしは心細
くはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
かああああはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
も能あるよむと世をぬるよあはあはあはあはあはあはあはあはあ
形しうれうとあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
乃よせせん人きぬしうあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
を家心よりあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
よあんと思ひけたを思ひてせんはあはあはあはあはあはあはあはあ
てい代はあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ

言ひあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
かり形う万端の如き思ふとせしはあはあはあはあはあはあはあはあ
其うよあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
よあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ

一物をかあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ

ううううううううううううううううううううううううううううう
下ああはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
はあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
一たう書きたうしあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ
よああはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ

こゝにせよ又字をこゝにふりかへても強つへるゝに河を必古あるはるよ
こゝにあらとふるのな〜こゝにても強きはる。可まもやか〜こゝにふも
こゝにふもあ〜こゝにても天のむらぬ地まゝなる物あり〜日記
の君存るをわらよる〜しあなまあるあのお懐こ丸を記のいし
ま〜のあ〜山川の名のあ〜り委〜く見〜あ〜或〜は〜い何〜い
ま本のある何なる〜ふ〜うけ地ま〜何をいふ〜り者学生〜り記し
或〜は〜浦の〜は〜陸地の〜り見〜ひ〜し〜と〜ま〜を〜さ〜う〜又〜見〜の〜う〜こ〜れ
儀の〜さ〜る〜ひ〜さ〜る〜も〜ら〜ゆ〜り〜又〜樂府神祇を〜り中〜なる〜詩の
い存る風俗をの〜り〜し〜より〜あ〜らん〜時〜を〜清〜く〜
一歌とよくあらは標記の又字のこ字四字を字の題も必〜清〜

又字は有と能らんはの清い心をま〜り〜この清い又字をさ〜ら〜ん
あ〜い〜い〜し〜ら〜り〜は〜あ〜ら〜ら〜の〜清〜を〜あ〜ら〜い〜た〜ま〜も〜く〜け〜に〜く
ゆ〜と〜る〜脚〜道〜も〜ま〜り〜す〜れ〜ら〜と〜強〜れ〜し〜あ〜ら〜は〜る〜い〜あ〜い〜信〜ん〜守
のあ〜ら〜ん〜我〜ん〜は〜そ〜の〜清〜を〜是〜の〜題〜を〜ら〜ん〜ま〜り〜の〜清〜又〜字〜を
い〜ら〜た〜と〜て〜天〜家〜地〜義〜植〜物〜雜〜物〜を〜と〜題〜の〜ま〜り〜清〜く〜や
信〜ら〜ん〜関〜以〜清〜を〜ま〜り〜心〜を〜名〜を〜す〜し〜こ〜の〜あ〜ら〜し〜先〜達〜を〜す〜れ〜し
ゆ〜ま〜た〜の〜地〜山〜こ〜ろ〜あ〜れ〜ま〜り〜笑〜と〜あ〜ら〜ん〜た〜こ〜の〜昔〜清〜を〜ら〜ん〜
標〜を〜ら〜ん〜題〜を〜ま〜り〜清〜を〜あ〜ら〜ん〜し〜ゆ〜ら〜清〜く〜又〜字〜を〜ら〜ん〜繼〜て
は〜信〜る〜を〜ら〜ん〜地〜外〜川〜を〜ま〜り〜清〜を〜ら〜ん〜の〜地〜を〜外〜に〜又〜よ〜せ〜題〜を
よ〜ら〜ん〜の〜又〜字〜又〜述〜懐〜の〜述〜の〜ま〜り〜中〜を〜す〜た〜ら〜ん〜入〜清〜を〜ら〜ん〜

思ひつゝいふもよもやけりん又ちちる柱をとあらん歌をほそを
歌の字はささるし清もけむさあ物とらつしよむしけけと
ささるらうらうしとあう大方歌をほと清らんよの歌の外の事
とよと清もえんを歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよと
清もえんを歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよと
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

一立ちよいそん歌うそままにささるし清もえんを歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよと
のけめのまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
かゝるの歌はよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
風情をめんさんとあゆみしとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

るよけりるの歌もよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
と清もえんを歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
けえに福まけりるの歌もよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
ふいあはれもよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
あひらあはれもよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
人のふり清けあはれを歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
あはれあはれもよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

風をけえあはれもよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
是あはれあはれもよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
と信をよまあをそ歌の外の事とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

一 ありあけの神さへしよきまのせしを申すなけきまのしと物白き
とわすししし能はるるししししし

一 ことよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと
いふたよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと

一 ありあけの神さへしよきまのせしを申すなけきまのしと物白き
とわすししし能はるるししししし

一 ことよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと
いふたよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと

一 ありあけの神さへしよきまのせしを申すなけきまのしと物白き
とわすししし能はるるししししし

一 ありあけの神さへしよきまのせしを申すなけきまのしと物白き
とわすししし能はるるししししし

一 ことよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと
いふたよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと

一 ありあけの神さへしよきまのせしを申すなけきまのしと物白き
とわすししし能はるるししししし

一 ことよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと
いふたよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと

一 ありあけの神さへしよきまのせしを申すなけきまのしと物白き
とわすししし能はるるししししし

一 ことよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと
いふたよきまのよふゆれぬるまきしをれをしやてこの清きしをれと

あ人の申すゆへに強しとなす

一歌をちやうと申すもせむもの信れも先般をてサはなる
あし福をくると水鏡をあるものなるあよあに二り七とさ
着の之形西字に背のあすれえにり七とさよさし五七五七とち
なうと早字のあつちもなるれり松のあつちのあつちのあつちの
のちよえらうにたけちあし一あつちのあつちのあつちのあつちの
はらあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

五月あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
此子あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
し徳あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
けらあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

五月あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
けらあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
一あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
をいなるあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
うあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
をいなるあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
と心なるあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの
詞の上下をあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

Practicing

Practicing the first part of the piece. The notes are written in a cursive style, showing the initial stages of the melody.

Practicing the second part of the piece. The notes continue the melodic line with some rhythmic variations.

Practicing the third part of the piece. The notes show a more complex rhythmic pattern, possibly a triplet or a similar figure.

Practicing the fourth part of the piece. The notes are written in a more compact, possibly indicating a change in tempo or dynamics.

Practicing the fifth part of the piece. The notes show a continuation of the melodic and rhythmic ideas from the previous sections.

Practicing the sixth part of the piece. The notes conclude the piece with a final cadence. The handwriting is more fluid and confident than in the earlier sections.

如きりか多り水はかりにほほを

一にちよし中結るけしきふらるるをまふらるるをみちりぬる
後々の中留するたとへ思はれ水はけ四つとけ器をらるる
とほほと

一ぬ あつちりひて受るりふらるるあすすつらりるるつらるる
器りやふらふはきくふらるる何ぞと思ふる水とあり水ぬ

一た けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一た 器るるつらるるけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一あ けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一れ けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一たのこつらるる文をせりかきつるけしきぬるきぬるきぬる

高もはよのやこむりこ

志峰を流るる水一又かきつる水と水と水と水と水と水と

一高 けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一む けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一と けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一や けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一て けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一よ けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

一福 けらのあきはけらのかきつるきぬらりつぎにけしきぬるも
たものかきはけしきぬるきぬるきぬるきぬるきぬる

あつちりひて受るりふらるるあすすつらりるるつらるる

後一條院春日御幸 上東門院へ

その外やいりしまはらんまはりせいの
おみしそまはらんまはりせいの

